

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.202

2019年7月1日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

## もう一つのヒロシマ・大久野島

平和教育部会  
授業研究会

宝塚市の小学校で平和教育部会が授業研究会をおこない、6年生を対象に、総合学習「平和について考えよう」の一環としてとりくみました。教材には、現在はウサギの島として注目されていますが、過去には毒ガスを作った歴史をもっている「大久野島」をとりあげました。授業は教員が説明していく教授型ではなく、子どもたちが小グループで資料を分担し、その資料の意味を読み解き、お互いに交流していくことで、大久野島の全容を考えていくというものでした。

最初に、授業者がパワーポイントで写真を見せ、現在の大久野島について簡単な紹介をした後、「どうして大久野島は地図から消されていったのかをみんなで考えていきましょう」と声をかけ、本時のめあてを確認しました。

次に、子どもたちは資料から、分かったこと・気づいたこと・思ったことをグループ毎に発表し、それらを通して資料が意味することをクラス全体で考えていきました。授業者は子どもたちの意見を板書に整理し、「大久野島は『被害』と同時に『加害』の島であること」や「地域住民、学生までも『協力』させられ、戦争に『加担』させられていた事実」を押さえていきました。そして、加害者の立場であった日本人と中国の人が手を取り合っている写真を示しました。中国の人が言った「あなたに逢えてよかった。戦争はみんなを不幸にします。二つの国が仲良くなり、平和な世界ができるよう力を合わせましょう」という言葉を紹介し、子どもたちは未来の世界のあり方についても思いを巡らすことができました。

最後には、阪神間にも今なお遺棄毒ガスが存在する可能性があることを示す環境省のパンフレットを見た子どもたちは大変驚いた様子でした。この問題は過去の出来事だけではなく、現在も続いている問題であり、戦争は遠いものではなく、自分事として捉えることができました。

授業後の話し合いでは、参観者から「資料を全体に与えずにグループ毎に分担し、全体で交流していく手法がよかった」「授業者のテンポの良い進行がよかった。また、板書のまとめ方もすばらしく、子どもたちが大久野島について多面的に捉えることができた」「平和や防災を取り上げると、“恐怖心”を抱かせる



ことになりがちであるが、本授業では、子どもたちは興味・関心をもって楽しんでとりくんでいた」などという意見が出されました。また、「大久野島を訪れたことがない教員にとって、大久野島についての授業をすることができるのか」といった課題も出されましたが、「阪神・淡路大震災を直接経験していなくても、防災教育にとりくむことはできるのと同じではないか」という意見もありました。

引き続き、平和教育部会では大久野島の教材化にむけて、研究をすすめていきます。

(本授業の指導案は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各地域組合へお問い合わせください。)